

# 年中児保育案

ほし組 男児15名 女児17名 計32名  
保育者 永吉 由紀子 松野下 倫代

## 1 幼児の実態

2学期以降、一緒に遊ぶ人数も多くなり、友だちと一つのイメージをもって遊ぶようになってきた。友だちと一緒に遊ぶ中で友だちのよさに気付いたり、新しい遊びを知ったりして子ども同士で遊びを広げていけるようになってきている。意見のぶつかり合いもあるが、友だちの思いを分かろうとする姿や、自分の思いを分かってもらうように伝えようとする姿が見られる。年長児や年少児と一緒に好きな遊びを楽しめるようになっており、異年齢児とのかかわりが深まってきている。

園庭では、寒い日でも体を動かして遊んでいる子どもが多く、自分の短縄で前跳びに挑戦したり、保育者の回す長縄を跳んだりして遊んでいる。また、友だちや保育者と鬼ごっこをしたり、年長児がしているドッジボールの仲間に入ったりして、ルールのある遊びの楽しさも味わっている。砂場では、砂や土を使ったままごとを楽しみ、出来上がったものを友だちや保育者に振舞う姿が見られる。ウサギにえさをあげたり、触ったりしながら生き物との触れ合いも楽しみ、育てているカブやチューリップに水を掛けて成長を楽しみにするなど、動植物への興味・関心も高まっている。

室内では、空き箱や毛糸などの様々な素材を使った製作を楽しみ、素材の大きさや形などにこだわり、自分がイメージするものに少しでも近づけようと試行錯誤する姿が見られる。中でも、毛糸遊びでは、毛糸を巻いてつくったポンポンの形のおもしろさや感触を味わっている。積み木やブロック遊びでは、家や基地などを友だちと一緒につくって遊び、子どもなりにつくったものに対して意味付けをして、イメージを膨らませて遊びを楽しんでいる様子が見られる。

このように、子どもたちは、いろいろなものとかかわりながら、友だちと遊ぶ楽しさを存分に味わい、友だちとのつながりを深めてきている。

## 2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、これまでの経験を通して友だちとのかかわりが深まり、広がってきている。

そこで、戸外での遊びを通して、集団で遊ぶときのルールを友だちと一緒に守ろうとしながら遊ぶ楽しさや、自分の目標に向かって繰り返し挑戦し、達成感や満足感を味わえるようにしたい。

鬼ごっこやボール遊びでは、自分たちで決めたルールを守りながら遊ぶことで遊びが成り立ち、面白さや難しさなどを味わうことで遊びの充実感が生まれる。縄跳び遊びは、寒い中で体を動かすことで体が温まることを感じながら、跳べるようになった喜びを存分に味わったり、たくさん跳べる友だちへの憧れの気持ちをもったり、「もっと跳びたい」という向上心を高めたりすることができる遊びである。

こうした遊びは、一緒に遊ぶ友だちと自分の考えやルールを伝え、確認し合うことで遊びや友だちとのつながりを深め、友だちと一緒に共通の思いや目的をもって遊ぶ姿につながっていくものであると考える。

## 3 この期の保育について

### (1) ねらい

- 友だちと考えを出し合いながらつながりを深め、協力して遊ぼうとする。
- 戸外で元気に遊びながら、自然の移り変わりを感じる。

### (2) 内容

- 友だちとイメージを伝え合いながら、遊ぼうとする。
- 簡単な役割分担をしながら、ごっこ遊びを楽しむ。
- いろいろな素材や用具を使い、遊びに必要なものをつくって遊ぶ。
- 氷や霜柱などに興味をもち、触れたり集めたりして遊ぶ。
- 冬の健康な生活の仕方を知り、自分のことは自分でしようとする。
- 当番活動を経験し、年長組に向けての期待感や、食事の時間への楽しみがさらに高まる。

## 4 本日の保育について

### (1) ねらい

- 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わいながら、協力して遊ぼうとする。
- 戸外で元気に遊びながら、自然の移り変わりを感じる。
- イメージを出し合いながら、役割分担をしてごっこ遊びを楽しむ。

### (2) 内容

- 友だちに自分の気持ちを伝えながら一緒に遊ぶ。
- 冬の自然を感じながら縄跳びや鬼ごっこ、ボールを使った遊びなど、友だちと一緒に体を動かして遊ぶ。
- 素材の大きさや形にこだわりながら、自分のイメージしたものをつくって遊ぶ。
- 友だちと工夫しながらごっこ遊びに必要な道具をそろえたり、場所をつくったりして遊ぶ。
- 手洗い・うがいや衣服の着脱を進んでしようとする。

### (3) 保育に当たって

かかわりによって育まれる体験

#### ア 人とかかわり

- 友だちと一緒に遊ぶ中で、自分たちで話をしたり役割を決めたりしながら遊びを進めようとする姿を認め、保育者も一緒に遊ぶようにしたい。遊ぶ中で、喜びや悲しみ、うれしさなど自分の感じたことや自分が考えたことを自分なりの言葉で伝えようとする姿を十分に認める言葉掛けをする。  
自分を出す 伝え合い 人とかかわる楽しさ
- 降園時の活動では、みんなで一緒に歌を歌ったり、絵本を見たり、友だちや保育者の話を聞いたりして、みんなで集まって活動することの楽しさを味わえるようにする。  
人とかかわる楽しさ 伝え合い 自分を出す
- 風邪などをひかないように、自分から進んで手洗い・うがいをする姿を認め、健康に過ごすためにはどうしたらいいかを一緒に考えていきたい。  
自立心

#### イ ものとかかわり

- 縄跳び遊びやボールを使った遊びなど体を動かして遊ぶことを通して、できるようになった喜びを保育者に伝えてくる姿を大切に、保育者も一緒に楽しみながら、子どもたちが満足感を味わい自信がもてるような言葉掛けをする。  
体を動かす楽しさ 満足感 自信
- 子どもたちが自分のイメージするものに近いものがつくれるように、様々な素材を十分に準備しておくようにしたい。数を十分に用意したり、あえて貸し借りをするような環境を整えたりして、友だちとのかかわりも多く生まれる環境を工夫する。  
ものとかかわる楽しさ 想像力 創造力 試行錯誤 満足感 人とかかわる楽しさ
- 子どもたちが遊びを進める中で、友だちと話を必要なるものを準備する姿を見守り、保育者も一緒に必要なものを考えたり、準備したりして環境を整えるようにする。  
想像力 創造力 試行錯誤 満足感

#### ウ 自然とかかわり

- 吐く息の白さや、手を擦り合わせると温かくなること、日なたの暖かさや水の冷たさなど冬の自然事象に子どもたちが気付く姿を大切に、その不思議さや驚きを共に味わうようにする。  
気付く 自然への親しみ 感動体験
- 寒さの中にも、育てているチューリップやカブの芽が出ていることなどを話題にし、園庭の植物の成長や変化などにも気付くような言葉掛けをする。  
気付く 自然への親しみ 感動体験
- ウサギやニワトリなどの生き物との触れ合いを楽しみながら子ども同士で気付いたことを話したり、生き物に優しく語り掛けたりしている姿を見守り、生き物への接し方についても機会を捉えて話していく。  
伝え合い 気付く 自然への親しみ 感動体験